※塗り丸の項目は、最低限ガイド中にお話ししてもらいたい項目になります。滞在時間が短いお客様にはこの項目を中心に話をしましょう。

場面：周堤墓に向かう途中で①

●国指定史跡についての説明	追加情報
●キウス周堤墓群は、国の史跡に指定されている。昭和に指定された後、令和に追加指定がなされた。	
○最初の指定は1979（昭和54）年。	・面積は約5ヘクタール、周堤墓8基、2か所の飛び地状。
○指定理由は「周堤墓の中でも特に規模が大きく、土木構築物として特異な景観を残している。」とある。	
○2013～2017（平成25～29）年に試掘調査。周堤墓周辺の遺跡の広がりが調べられた。	・2009（平成21）年、千歳市がキウス周堤墓群の管理団体となったため。 ・試掘調査の結果、周堤墓と同時期の遺跡の広がりが判明し、新たな周堤墓や通路状遺構も発見された。
●追加指定は2019（令和元）年10月。	・16日
○追加指定の理由は「新たに確認した通路状遺構を含め、重要であり、縄文時代後半期における墓制、社会構造を考える上で欠くことのできない遺跡」のため、「追加指定し、保護の万全を図る。」とある。	
●現在の指定地の面積は約11ヘクタール。	・108,772.06平方メートル
●9基の周堤墓が含まれる。	・新たに14号周堤墓、通路状遺構が加わった。
●また、世界遺産登録に関する話では、2012（平成24）年、世界文化遺産の登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産の一つに追加で加わる。	・構成資産は17か所。 ・現在、世界遺産委員会での最後の審査を待っている段階。
○キウス周堤墓群の世界遺産の登録範囲は、現在の史跡の範囲と同様。	

所要時間：●のみ２分、○含むと２～３分、追加情報を入れると４分

※塗り丸の項目は、最低限ガイド中にお話ししてもらいたい項目になります。滞在時間が短いお客様にはこの項目を中心に話をしましょう。

場面：周堤墓に向かう途中で②

●周堤墓全般についての説明	追加情報
●縄文時代のお墓の一種。ドーナツのような特徴的な形。	・その名前のとおり、「周りを堤（土手）で囲んだお墓」
●約3200年前、縄文時代の終わりころ（だけ）に造られた集団墓。	・縄文時代後期後葉（専門家用） ・土器形式：堂林式～三ツ谷式～御殿山式（専門家用）
●北海道だけに造られ、現在までの発見例は70基（推定含むと74基）。	・道内の周堤墓：千歳市、恵庭市、苫小牧市、芦別市、斜里町、標津町の6市町村のみ
●千歳市に特に多く、45基（推定含むと46基）発見されている。	・市内の周堤墓：キウス周堤墓群（9）のほか、キウス7号周堤墓、キウス4遺跡（20）、丸子山遺跡（2）、末広遺跡（3）、美々4遺跡（9）、美々5遺跡（1）
○1遺跡内での周堤墓は複数存在することも特徴。単独存在の例なし。基本的に2基1対。	
●中央に円い竪穴を掘り、掘った土を周囲に土手状に盛り、周堤を造る。	・一般的な周堤墓の大きさは外径10～30m ・新しい段階の周堤墓ほど規模が大きくなる傾向（一説）。
○周堤には一部低くなっている部分があり、出入り口と考えられている。	・小さな周堤墓には出入り口ない。
●そして竪穴の中に1つから複数の墓穴を設け、遺体を埋葬する。	・最初に竪穴の中央にやや大きな墓穴が作られ、周囲に広がる。 ・一つの周堤墓の墓穴最多例は21基（恵庭市柏木B遺跡第1号周堤墓） ・キウスは部分的な調査のみなので、最多例更新するかも。 ・墓穴が多くなると周堤部分にも墓穴が及ぶ例あり。
○墓穴は基本的に一つにつき一人がそのまま埋葬された土葬。	・骨は土で分解され、ほとんど残っていない。 ・骨の形の分かる例では、足を延ばした伸展葬が多く、墓穴の形が長円形となる。 ・抜歯人骨が認められた出土例あり（美沢1遺跡）
○墓穴の形は長円形、楕円形。	・長円形は伸展葬、北海道の縄文時代では珍しい。 ・楕円形は合葬、屈葬もしくは子供の墓。
○墓の長軸方向には小さな穴がある例。墓標を立てた痕跡。	・個々のお墓の位置が分からなくならないようにするため。
○墓標として、木柱の痕跡例あり。角柱状の石柱、細長い転礫の石柱出土例あり。また、墓穴上に積み石・配石をする例あり。	・木柱には赤色に塗られる例あり。 ・石柱の産地：角柱の礫は支笏湖畔モーラップ山の柱状節理と同定されているものあり（柏木B遺跡）。 ・キウスから湖畔にある露頭まで約35kmの距離。 ・木柱→石柱→積石に変化（一説）。
○墓には合葬される例あり。	
○副葬品には弓（赤漆・黒漆）、石斧、石鏃、石棒、ヒスイの玉、サメの歯、漆塗り櫛、貝輪の例あり。	・墓の底にはベンガラがまかれる例あり。

所要時間：●のみ１分、○含むと３分、追加情報を入れると６分

※塗り丸の項目は、最低限ガイド中にお話ししてもらいたい項目になります。滞在時間が短いお客様にはこの項目を中心に話をしましょう。

場面：周堤墓に向かう途中で③

●キウス周堤墓群のある地形と周辺の遺跡についての説明	追加情報
●この場所は東側にある馬追丘陵の”すそ野”の部分にあたる。	・標高275m、全長50㎞(厚真、安平、千歳、長沼、由仁町)、幅5～8㎞ ・地理的な名称では石狩低地帯の東縁部。
●周堤墓群は標高15～21m、緩やかな斜面地形上にある。	
○斜面地形には細い筋状のごく浅い谷地形が数本発達している。	・谷地形は北西方向に延びる。
○周堤墓群はその谷地形の間にあたる細長い尾根上の微高地に造られる特徴。	・実際には二つの尾根上で連結した周堤墓が複数造られている。
●周堤墓群の西側はさらに一段低い土地になっている。	・標高5～10m ・現在は畑が広がっている。
●西側の低い土地は当時、広大な湖沼・湿地帯だった。	・オサツトー、マオイトー　・昭和の中頃まで残っていた。
●同様の丘陵すそ野にある平坦な地形は、市内では南北10㎞の範囲に延びており、60か所ほどの遺跡が確認されている。	・縄文の他にも旧石器文化(オルイカ2遺跡)、擦文文化(チプニー2遺跡)、中近世(アイヌ文化)(キウス9遺跡)

所要時間：●のみ１分、○含むと２分、追加情報を入れると３分

場面：周堤墓に向かう途中で④

○キウスの地名	追加情報
●アイヌ語地名が元になっている。	
●「キ・ウシ」＝”茅・群生するところ”という意味。	・当時の湖沼周辺の葦原をイメージしてもらう。 ・茅とはイネ科・カヤツリクサ科の総称。葦とはイネ科ヨシ属で水際に背の高い群落を形成。

所要時間：20秒、追加情報を入れると１分

※塗り丸の項目は、最低限ガイド中にお話ししてもらいたい項目になります。滞在時間が短いお客様にはこの項目を中心に話をしましょう。

場面：周堤墓に向かう途中で⑤

●史跡指定前の調査・研究ほか	追加情報
●周堤墓群を貫くように通っている隣に見える道路は、古い時代に造られたもので、1890（明治23）年に開通。	・当初の名前は由仁街道（現国道337号）。 ・一説には開通は1891（明治24）年（専門家用） ・この辺りの最初の入植は、ケネフチ地区が最も早く、明治十年代。 ・室蘭線の開通は1892（明治25）年。当初の停車場：室蘭、幌別、登別、白老、苫小牧、追分、由仁。現在は長万部－岩見沢まで延伸。
●その後、様々な調査や研究がなされていく。	
●現在、周堤墓群は縄文時代の集団墓と分かっているが、それは戦後になってのことで、それ以前は異なる学説が主流。	
○周堤墓群を学会で最初に紹介した研究者は、河野常吉	・1863（文久2）年生まれ、明治大正期の北海道史研究のパイオニア的存在。 ・全道におよぶ現地調査や古文献・植民記録の研究で有名。 ・キウスでは現地のスケッチ、周辺の聞き取り調査を実施。
●当初、河野をはじめ、学会ではアイヌのチャシ（砦）との説が主流。	・他に土城説、ツングースの防御砦説、動物捕獲施設説
○河野は、キウスの保存の重要性を説いており、その後の指定に影響。	
●1930（昭和5）年、「キウスのチャシ」として史跡名勝天然記念物に仮指定を受ける。	・指定区域は約3.8ヘクタール、5つの周堤墓（1～5号） ・仮指定は1950（昭和25）年、文化財保護法制定に伴い解除。 ・仮指定を受けた年（1930年）、常吉死去。
○最初、斜里町の朱円周堤墓の調査が行われ、縄文時代の遺跡と判明した。その後キウスの調査。	・1948・49（昭和23・24）年に調査。 ・北海道学芸大学教授の河野広道の調査。 ・広道は先ほど紹介した河野常吉の息子にあたる。
●昭和の中頃、1・2号周堤墓で小規模な発掘調査。	・1964・65（昭和39・40）年調査 ・北海道大学教授の大場利夫と地元小中学校長石川徹の調査
●発掘調査の結果、縄文時代の集団墓地と判明。	
●縄文時代の終末に降った火山灰の下から、墓穴や土器・石器が見つかったため、縄文時代のものと分かった。	・当時は「環状土籬」と呼称。 ・環状土籬は環状石籬（ストーンサークル）の対比語で、当時からストーンサークルとの関連性が指摘されていた。 ・あまりに規模が大きなことから、縄文時代の遺跡であることがなかなか浸透せず。
○1968（昭和43）年、この調査をもとに北海道文化財に指定を受ける。	・指定名称は「千歳キウス環状土籬群」 ・指定区域は約4.2ヘクタール、6つの周堤墓（1～6号）

所要時間：●のみ２分、○含むと３分、追加情報を入れると７分

※塗り丸の項目は、最低限ガイド中にお話ししてもらいたい項目になります。滞在時間が短いお客様にはこの項目を中心に話をしましょう。

場面:2号周堤墓の近辺で

●2号周堤墓の説明	追加情報
●外径73m、内径30m	・キウス周堤墓群の中で3番目に大きい
●こちらから見える周堤外側の高さ2m、周堤の内側の深さ4.7m	
●キウス周堤墓群の中で最も深い、外から内側を覗くことができない周堤墓	・約5mは信号機の設置する高さ、オスのキリンの頭の高さに相当。
○この周堤墓を造った際に約3000立方メートルの土を動かしたと試算されている。	・金属などの便利な道具のない縄文時代、一日土を掘って運搬して周堤に積み上げた量が一人一立方メートルとすると、20人で150日かかる計算。
●1965(昭和40)年に竪穴内の部分的な発掘調査が行われた。	・中心付近で、約48平方メートルの調査。竪穴内の7パーセントの面積、周堤を入れた全体面積の1パーセント。 ・北海道大学教授の大場利夫と地元小中学校長石川徹の調査
●墓穴が1基発見された。	・長さ約1.1m、幅約1.0mの楕円形、深さ25㎝。 ・墓坑の長軸は東西方向。
○黒曜石製の石鏃が副葬されていた。	・内部には腐朽した骨格の残存あり。 ・底面は一面にベンガラが敷き詰められていた。
●墓穴の上面の周辺には8個のまばらな配石あり。	
●配石の周辺から石皿と土偶片が出土した。	・石皿は長さ70㎝で扁平。ベンガラが付着。 ・土偶は肩部の破片で中空、一部にベンガラが付着 ・両遺物とも埋蔵文化財センターに展示中

所要時間：●のみ１分、○含むと１～２分、追加情報を入れると４分

※塗り丸の項目は、最低限ガイド中にお話ししてもらいたい項目になります。滞在時間が短いお客様にはこの項目を中心に話をしましょう。

場面：1・2号周堤墓の間で①

●周堤出入り口の説明	追加情報
●周堤の低くなっている部分が出入り口と考えられる。	・間の部分は若干ごく低い谷状の地形。
●出入り口の向きに注目すると、1・2号の出入り口が向かい合っている。	
○さらに手前側、3号周堤墓の出入り口は1号と同じ向きに作られている。	・地形図から判明。
●出入り口の存在と方向から、この地点が通路として使われていた可能性。	
○国道を渡った側にある周堤墓（4・5・11・12号）は、すべて西側に向けて出入り口が設置されている。	
○これらの周堤墓の西側（出入り口を出た部分）には2列の盛り土が確認。	・盛り土列は南北方向に延びる。
○盛土列の間が通路状遺構。	・ここから500m程南側にあるキウス4遺跡（千歳東インターチェンジ部分）でも同様の道跡が見つかっている。 ・両者は繋がる可能性がある。

所要時間：●のみ１分、○含むと1～２分、追加情報を入れると2～３分

場面：1・2号周堤墓の間で②

○４号周堤墓についての説明	追加情報
●外径79m、内径43m	・キウス周堤墓群で2番目に大きい
●竪穴の面積はキウス周堤墓群で最も広い	・中に学校のプールが3つ入るほどの大きさ。
●こちらから見える周堤外側の高さ1．3m、周堤の内側の深さ1．5m。	・キウス周堤墓群で3番目に深い
●1965（昭和40）年、4号周堤墓の北側外縁部で墓穴1基を発見、調査。	・長さ1.1m、幅0.9mの隅丸方形、深さ60㎝。 ・墓坑の長軸は北西－南東方向。
○墓穴の底には厚くベンガラが撒かれていた。	
●粘板岩製の石棒が副葬されていた。	・石棒は、長さ57.5㎝、重さ710g。両頭で細かい線刻あり。 ・線刻の模様は皆さんが持っているパンフレットにデザイン化されて載っているので、どの部分にあるか探してみて。 ・両端は異なる模様が施されていた。 ・遺物は埋蔵文化財センターに展示中

所要時間：●のみ１分、○含むと１分、追加情報を入れると２分

※塗り丸の項目は、最低限ガイド中にお話ししてもらいたい項目になります。滞在時間が短いお客様にはこの項目を中心に話をしましょう。

場面:1号周堤墓の近辺で

●１号周堤墓の説明	追加情報
●外径83m、内径36m	
●キウス周堤墓群で最も大きい。	・ジャンボジェット機(75m)よりも大きい。
●こちらから見える周堤外側の高さ1．9m、周堤の内側の深さ2．8m。	
●キウス周堤墓群の中で二番目に深い、外から内側を覗くことができない周堤墓。	
○ほかの周堤墓と違い、竪穴の中央部が盛り上がる形。	・内側の周堤の縁が低くなっている。
●1964(昭和39)年に部分的な発掘調査が行われた。	・中心付近から長さ33mの溝状の発掘区、約67平方メートル。竪穴内の7パーセントの面積、周堤を入れた全体面積の1パーセント。 ・北海道大学教授の大場利夫と地元小中学校長石川徹の調査
●墓穴5基が発見。	・中央の墓穴(長さ2m)ではすでに発掘された跡を発見。 ・他の4基は長さ1m前後、幅0.5～0.8mの楕円形、深さ60cm、。 ・墓穴の長軸は南北方向3基、東西方向2基。
●墓穴の一つ(第4号墓坑)では、中心部に墓標と思われる立石(石柱)が出土。	・立石(石柱)の長さは62cm
○副葬品なし。	・墓の埋め土から土器片・石器が少量出土。

所要時間：●のみ１分、○含むと１～2分、追加情報を入れると３分

※塗り丸の項目は、最低限ガイド中にお話ししてもらいたい項目になります。滞在時間が短いお客様にはこの項目を中心に話をしましょう。

場面:3号周堤墓の東側(標高の高い地点)で

●周堤墓群の説明	追加情報
●この地点は、周堤墓が造られた中で、最も標高の高い。	・遠くの周堤墓まで見渡すことができる。
●3号・1号・4号が連なって見える。連結していることもキウスの大きな特徴。	・連結している部分の周堤の平面的な形は、1号から見た時、3・4号の形状となっており、1号の両脇はややひしゃげた形。 ・周堤の高さは、東側(3号側)は3号の高さに合わせ低く、西側(4号側)は1号の高さに合わせてある。
○さらに国道の向こう側では4号と11号が連結。	・左手側にある2号周堤墓も国道の向こう側で5・12号と連結。
○連なっている1・3・4・11号周堤墓が造られた順番は、1号周堤墓が最も新しく造られた(一説)。	・周堤の重複や土砂の堆積状況を根拠としており、説自体の検証発掘が必要。 ・説に従えば時期が新しくなるにつれて周堤墓が大型化する傾向。
●3号周堤墓は、外径51m、内径27m。	
●50mを超えるサイズでもキウス周堤墓群では9基中6番目の大きさ。	・キウスには50mを超える周堤墓が7基も存在(50m台の周堤墓が4基、70m台が2基、80m台が1基)。
●こちらから見える周堤外側の高さ0．7m、周堤の内側の深さ0．8m。	
●1・2号とは対照的に、外から内側を覗くことができる周堤墓。	

所要時間：●のみ１分、○含むと１～2分、追加情報を入れると２分

※塗り丸の項目は、最低限ガイド中にお話ししてもらいたい項目になります。滞在時間が短いお客様にはこの項目を中心に話をしましょう。

場面：帰り道で①

●キウスの森の説明	追加情報
●現在の森林の植生はコナラ、ミズナラの広葉樹が多く、森の木の半分近くを占める。	・他に多い順：アサダ、エゾイタヤ、ホオノキ、ハリギリ、ハルニレ、エゾヤマザクラ、キタコブシ、オオバボダイジュ。 ・近辺には径100㎝を超える大木が5本ほどあり。樹齢200～300年
○ちなみに現在の植生のうち重要種としてサルメンエビネ、ヤマシャクヤクが確認。	・サルメンエビネ：『環境省レッドリスト2019』で絶滅危惧Ⅱ類 ・ヤマシャクヤク：『環境省レッドリスト2019』で準絶滅危惧
●この周辺の試掘調査の際、花粉分析を行っており、周堤墓のころの森の様子が復元。	
●当時のキウスの森でもコナラ属（コナラ、ミズナラなど）が大半。次にモミ属、マツ属などの針葉樹の花粉が検出。	・他に多い順：ハンノキ属、ニレ属ーケヤキ属、ウコギ科などの広葉樹。
○草本類の花粉では当時、カラマツソウ属が大半。	・他に多い順：ヨモギ属、イネ科、タンポポ亜科、セリ科、キク亜科
○草本類は、明るく開けた場所に群落を形成する種を含んでいる。	
●こういったことから、この辺りは、明るく日差しが入る程度の間隔でコナラ属を中心とする広葉樹が生え、背後の丘陵や山地に針葉樹の森が広がっていた光景が復元されている。	
●この場所は、明治以降、植林などがなされていない。周堤墓のころの縄文時代から植生が大きく変化していないことが分かった。そういった意味でも大変貴重な場所。	

所要時間：●のみ１分、○含むと２分、追加情報を入れると３分

※塗り丸の項目は、最低限ガイド中にお話ししてもらいたい項目になります。滞在時間が短いお客様にはこの項目を中心に話をしましょう。

場面：帰り道で②

●周堤墓の番号についての説明	追加情報
●周堤墓の番号は飛び飛びとなっている。	・史跡内の番号は1～6・11・12・14号。
●番号が無い理由は、史跡の範囲だけではなく、この周辺地域も含めて番号が付けられているため。	
●これまでの調査で、新たに周堤墓が見つかるたびに番号が追加され、これまで史跡外で確認されていた周堤墓は5基(7～10・13号)。	・史跡指定以前。
●このうち、7号を除く4つの周堤墓は位置不明ないし、誤認であったことが判明している。	
○初めて周堤墓の番号が付けられたのは、1964・65(昭和39・40)年の発掘調査の時(史跡指定前)で、1～7号が付けられた。	
○この内、7号は現存するものの、8～10号は当時から周堤がない状態だったため、現在、残念なことに位置が不明となっている。	・7号の位置はここから南に300m程離れた地点。 ・8～10号の位置はここから南に700m程離れた地点でまとまって認識。
○1978(昭和53)年の測量調査の時に、11～13号が追加。この内、13号のみが史跡から約3km南に離れた地点で確認。	
○その後、13号周堤墓の試掘調査が行われ、周堤墓ではないことが判明。	・開発に伴うもので、現在新しい国道337号となっている。
○ただし遺跡であったことから、現在オルイカ1遺跡に名称変更。	
●ですので、現在中央地区全体で番号のある周堤墓の数は10基。	・史跡外では1基。

所要時間：●のみ１分、○含むと２分、追加情報を入れると３分

この他、市内の特徴的な遺跡、文化財や千歳市命名の話、市内の観光地や有名店、お土産、物産などの話をするのもよいでしょう。